

エコアクション21

2020年度 環境経営レポート

対象期間 2020年4月1日～2021年3月31日

発行日
改訂日

2021年4月28日
2021年8月16日

株式会社 サン電材社

株式会社 **サン電材社**



TOKAI RIKAI GROUP

株式会社サン電材社 2020年度環境経営レポート 目次

1.環境経営方針	2
2.事業概要	3
3.環境管理実施体制		
① 組織図	4
② 役割と責任、権限	5
4.環境負荷 環境経営目標と実績		
① 主な環境負荷の実績	6
② 2020年度環境経営目標 実績対比および達成状況	9
③ 2020年度 活動評価	11
④ 2021年度環境経営目標（単年度）		
1) 全社目標	12
2) 本社目標 および 3) 音羽事務所 目標	13
5.環境経営計画	14
6.中期環境経営目標	15
7.環境改善事例	16
8.法規・法令順守状況	17
9.外部コミュニケーションの記録	18
10.代表者による全体評価と見直し	19

株式会社サン電材社 環境経営方針

① 環境への取り組み 基本方針

- 1.社会の一員として、環境への取り組みを全社一丸となり進めます。
- 2.法・地域や顧客との約束を守り、さらに自主目標を定め、
環境汚染の未然防止を進めます
- 3.環境改善活動および社会貢献活動を全社的・継続的に実施展開します。
- 4.顧客要望対応を充実させ、省エネ・環境配慮の高いものづくりを推進します

② 環境への取り組み 行動指針

- 1.環境目標の設定と継続的改善
当社の環境負荷削減のため、環境目標を設定し、目標達成のため全社で取り組みます。また、継続的な改善を図り、環境にやさしい企業を目指します。
- 2.産業廃棄物の削減とリサイクルの推進
産業廃棄物の分別の推進やリサイクル意識の向上を図ることでリサイクル率を高め、廃棄物総量の削減を推進します。
- 3.CO2排出量の削減と水資源の節約
空調や照明などの効率的な運用により電力使用量の削減および、社用車のハイブリッド車導入やエコ運転の推進等を通じ、CO2排出量削減を推進します。
また、水道等の水量適正化や連続使用の抑制、節水意識の向上をはかり水資源の利用節減を推進します。
- 4.顧客要望対応の充実による省エネ・環境配慮型製品の製造推進
お客様からの要望を製品に十分に反映させることで、省エネ・環境配慮型の製品を製造・販売することを推進します。
- 5.法令遵守
環境関連法令、条例、規制を遵守し、社会の一員としての責務を果たします。
- 6.近隣および社会との共存共栄
環境教育や啓蒙活動などの環境活動を通じ、全社員の環境意識の向上に努め近隣地域ならびに社会との良好な関係を育み、共存共栄に努めます。

制定： 2016年 4月 1日

改定： 2018年 4月 1日

株式会社 サン電材社

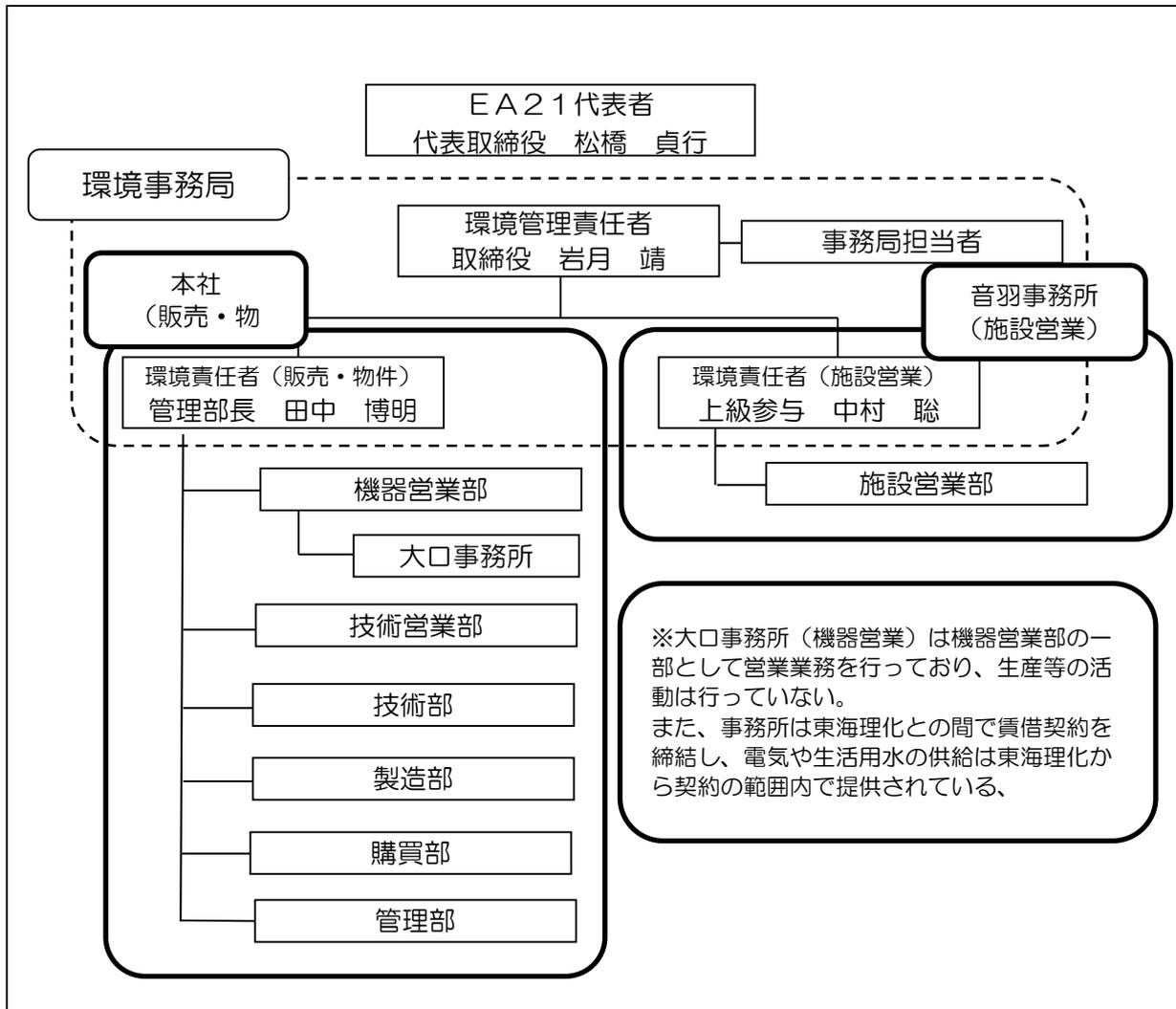
代表取締役 松橋 貞行

事業概要

事業者	株式会社 サン電材社
本社所在地	愛知県豊橋市西幸町字浜池331番地7
代表者	代表取締役 松橋 貞行
事業内容	産業用機械（自動機・検査機）及び 試験機的设计・製造・販売・メンテナンス 電機・機械部品の販売 施設等建設・土木工事の営業活動および現場進捗管理
事業拠点	本社工場・事務所 〒441-8113 愛知県豊橋市西幸町字浜池331番地7 TEL：0532-38-5631（代表） FAX：0532-38-5682 事業所延べ面積：5580㎡ 建物面積 4011㎡
	音羽事務所 〒441-0295 愛知県豊川市赤坂町平山1番地 TEL：080-6978-1943（林） FAX：0533-88-3098 事務所延べ面積：30㎡
事業の規模	事業期間 第48期（2020年4月～2021年3月） 売上高：4,750百万円（内 製作物：2,922百万円）
従業員数	105名（2021年3月31日時点） 内：本社 97名（正社員76名 パート・嘱託21名） 音羽事務所8名（正社員8名）
環境管理責任者	取締役 機器営業部長 岩月 靖 TEL：0532-38-5633 FAX：0532-38-5682 E-mail：y.iwatsuki@sandenzai.co.jp
EA21推進事務局 （連絡先担当者）	管理部 室川 研児 TEL：0532-38-5633 FAX：0532-38-5682 E-mail：k.murokawa@sandenzai.co.jp
対象範囲 （承認・登録範囲）	本社工場・事務所および音羽事務所

環境管理実施体制

① 組織図



作成： 2020年10月30日
改訂： 2021年6月1日

3.環境管理実施体制

② 役割と責任、権限

	役割・責任・権限
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等の準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境目標・環境活動計画書を承認 ・環境方針の策定 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめを承認 ・環境目標、環境活動計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境方針の全従業員への周知 ・環境活動レポートの確認 ・審査結果及び是正措置等の代表者への報告
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、E A 2 1 の推進 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境活動レポートの作成、公開 ・環境重要設備の手順書作成及び運用管理 ・特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト、訓練の実施、記録の作成
環境責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点における環境経営システムの実施 ・拠点における環境方針の周知 ・拠点の従業員に対する教育訓練の実施 ・拠点に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・拠点の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

4.環境負荷 環境経営目標と実績

① 主な環境負荷の実績

(1) 全社合計

環境への負荷		単位	2018年度	2019年度	2020年度	
① 二酸化炭素 排出原単位	電力消費によるもの	kg-CO ₂ ÷千万円	245.0	219.7	287.2	
	化石燃料消費に よるもの		ガソリン	164.0	132.7	163.2
			軽油	16.0	13.5	16.1
	排出合計の原単位		425.0	366.0	466.5	
基準となる売上高		千万円	678.5	713.0	475.0	

<参考> 二酸化炭素排出量 (排出量の単位 …… kg-CO₂)

項目	排出計数	2018年度	2019年度	2020年度
電力消費によるもの※	0.527kg-CO ₂ /kWh	166,211	156,667	136,433
ガソリンによるもの	2.320kg-CO ₂ /L	111,255	94,627	77,518
軽油によるもの	2.580kg-CO ₂ /L	10,885	9,651	7,630
合計		288,351	260,945	221,581

※電力量に係るCO₂排出計数…環境省「電気事業者別排出係数 令和元年度」公表値のうち、鈴与電力株式会社・調整後排出計数を適用

環境への負荷		単位	2018年度	2019年度	2020年度
② 一般廃棄物の排出量		トン	21.6	20.7	1.83
③ 産業廃棄物の排出量 廃棄物最終処分量	中間処理廃棄物	トン	9.8	10.6	7.7
④ 水道（上水）使用量		m ³	558	500	472
⑤ 化学物質の適正管理	指定数量倍数	倍数	0.186	0.189	0.189
	化学物質状況確認	回	12	12	12
⑥ 省エネ型製品設計製造	QCD活動回数	回	12	12	12

4.環境負荷 環境経営目標と実績

① 主な環境負荷の実績

(2) 本社

環境への負荷		単位	2018年度	2019年度	2020年度	
① 二酸化炭素 排出原単位	電力消費によるもの	kg-CO ₂ ÷千万円	276.5	250.9	332.9	
	化石燃料消費に よるもの		ガソリン	185.1	151.6	175.8
			軽油	18.1	15.5	18.6
	排出合計の原単位		479.6	366.0	500.9	
基準となる売上高		千万円	601.2	624.3	409.8	

<参考> 二酸化炭素排出量 (排出量の単位 …… kg-CO₂)

項目	排出計数	2018年度	2019年度	2020年度
電力消費によるもの※	0.527kg-CO ₂ /kWh	166,211	156,667	136,433
ガソリンによるもの	2.320kg-CO ₂ /L	111,255	94,627	72,059
軽油によるもの	2.580kg-CO ₂ /L	10,885	9,651	7,630
合計		288,351	260,945	216,122

※電力量に係るCO₂排出計数…環境省「電気事業者別排出係数 令和元年度」公表値のうち、鈴与電力株式会社・調整後排出計数を適用

環境への負荷		単位	2018年度	2019年度	2020年度
② 一般廃棄物の排出量		トン	21.6	20.7	1.71
③ 産業廃棄物の排出量 廃棄物最終処分量	中間処理廃棄物	トン	9.8	10.6	7.7
④ 水道（上水）使用量		m ³	558	500	472
⑤ 化学物質の適正管理	指定数量倍数	倍数	0.186	0.189	0.189
	化学物質状況確認	回	12	12	12
⑥ 省エネ型製品設計製造	QCD活動回数	回	12	12	12

4.環境負荷 環境経営目標と実績

① 主な環境負荷の実績

(3) 音羽事務所（2020年9月～2021年3月）

環境への負荷			単位	2020年度
① 二酸化炭素 排出原単位	化石燃料消費に よるもの	ガソリン	kg-CO2 ÷千万円	83.6
基準となる売上高			千万円	65.3

<参考> 二酸化炭素排出量 （ 排出量の単位 …… kg-CO₂ ）

項目	排出計数	2020年度
ガソリンによるもの	2.320kg-CO ₂ /L	5,459
合計		5,459

環境への負荷	単位	2020年度
② 一般廃棄物の排出量	トン	0.12

※音羽事務所は2020年9月より運用を開始した。

4.環境負荷 環境経営目標と実績

② 2020年度目標実績対比 および達成状況

(1) 全社

環境への負荷		単位	目標	実績	対目標比	達成	
① 二酸化炭素 排出原単位	電力消費によるもの	kg-CO ₂ ÷千万円	243.6	287.2	117.9%	×	
	化石燃料消費に よるもの		ガソリン	166.4	163.2	98.1%	○
			軽油	18.2	16.1	88.2%	○
	排出合計の原単位		428.2	466.5	108.9%	×	
基準となる売上高		千万円	680	410			

<参考> 二酸化炭素排出量 (排出量の単位 …… kg-CO₂)

項目	排出計数	目標	実績	対目標比
排出量合計	電力※	285,126	221,581	77.7%
	ガソリン			
	軽油			
	0.527kg-CO ₂ /kWh			
	2.320kg-CO ₂ /L			
	2.580kg-CO ₂ /L			

※電力量に係るCO₂排出計数…環境省「電気事業者別排出係数 令和元年度」公表値のうち、鈴与電力株式会社・調整後排出計数を適用

環境への負荷		単位	目標	実績	対目標比	達成
② 一般廃棄物の排出量		トン	20.0	1.83	9.2%	○
③ 産業廃棄物の排出量 廃棄物最終処分量	中間処理廃棄物	トン	9.8	7.7	78.9%	○
④ 水道（上水）使用量		m ³	530	472	89.1%	○
⑤ 化学物質の適正管理	指定数量倍数	倍数	0.2未満	0.189	—	○
	化学物質状況確認	回	12	12	—	○
⑥ 省工ネ型製品設計製造	QCD活動回数	回	12	12	—	○

4.環境負荷 環境経営目標と実績

② 2020年度目標実績対比 および達成状況 (2) 本社

環境への負荷			単位	目標	実績	対目標比	達成
① 二酸化炭素 排出原単位	電力消費によるもの		kg-CO2 ÷千万円	267.6	332.9	124.4%	×
	化石燃料消費に よるもの	ガソリン		169.8	175.8	103.6%	×
		軽油		20.0	18.6	93.1%	○
	排出合計の原単位			460.6	500.9	108.7%	×
基準となる売上高			千万円	619	410		

<参考> 二酸化炭素排出量 (排出量の単位 …… kg-CO₂)

項目	排出計数	目標	実績	対目標比
排出量合計	電力※	277,059	216,122	78.0%
	ガソリン			
	軽油			
	0.527kg-CO ₂ /kWh			
	2.320kg-CO ₂ /L			
	2.580kg-CO ₂ /L			

※電力量に係るCO₂排出計数…環境省「電気事業者別排出係数 令和元年度」公表値のうち、鈴与電力株式会社・調整後排出計数を適用

環境への負荷			単位	目標	実績	対目標比	達成
② 一般廃棄物の排出量			トン	19.4	1.71	8.8%	○
③ 産業廃棄物の排出量 廃棄物最終処分量	中間処理廃棄物	トン	9.8	7.7	78.9%	○	
④ 水道(上水)使用量			m ³	530	472	89.1%	○
⑤ 化学物質の適正管理	指定数量倍数	倍数	0.2未満	0.189	—	○	
	化学物質状況確認	回	12	12	—	○	
⑥ 省エネ型製品設計製造	QCD活動回数	回	12	12	—	○	

(3) 音羽事務所(2020年9月~2021年3月)

環境への負荷			単位	目標	実績	対目標比	達成
① 二酸化炭素 排出原単位	化石燃料消費に よるもの	ガソリン	kg-CO2 ÷千万円	132.2	83.6	63.2%	○
基準となる売上高			千万円	61.0	65.3		

<参考> 二酸化炭素排出量 (排出量の単位 …… kg-CO₂)

項目	排出計数	目標	実績	対目標比	達成
ガソリン排出量合計	2.320kg-CO ₂ /L	8,067	5,459	67.7%	○

環境への負荷			単位	目標	実績	対目標比	達成
② 一般廃棄物の排出量			トン	0.6	0.1	20.0%	○

4.環境負荷 環境経営目標と実績

③ 2020年度 活動評価

1) 2019年度からの変化点

項目	詳細
コロナ禍による売上減少	コロナウイルス感染症の影響により売上高238千万円の減少
事務所エリア改装	事務所エリア設備更新と、それに伴う2Sの実施で廃棄物が増加

2) 2020年度環境活動計画

項目	活動計画	
二酸化炭素 排出原単位 削減	電力	太陽光発電活用・空調稼働温度の適正化
	ガソリン	移動コスト削減（東海理化本社に事務所スペース確保）
	軽油	エコドライブの推進・啓蒙（アイドリングストップ等）
一般廃棄物排出量維持抑制	古紙再資源化推進	
産業廃棄物排出抑制	混合廃棄物のリサイクル推進	
節水	節水意識の啓蒙・手洗い水流量管理	
化学物質の適正管理	化学物質の最大保管量指定・定期見直し	
省エネ型製品設計製造	技術関連会議でのOCD活動による顧客要望の充実	

3) 評価と要因分析

環境への負荷		目標	達成	要因
① 二酸化炭素 排出原単位	電力	117.9%	×	売上減による原単位分母の減少
	ガソリン	98.1%	○	リモート会議実施等で車輛移動減少
	軽油	88.2%	○	売上減による運送（配送等）機会減少
② 一般廃棄物排出量		9.2%	○	排出量測定を見込→実測に切替
③ 産業廃棄物 排出量	中間処理廃棄物	78.9%	○	廃棄物のリサイクル分別推進による
④ 水道（上水）使用量		89.1%	○	手洗水量調整・節水意識向上
⑤ 化学物質 適正管理	指定数量倍数	—	○	化学物質数量管理が適切に 実施されている
	化学物質状況確認	—	○	
⑥ 省エネ型製品設計製造	QCD活動回数	—	○	QCD活動の適切な推進による

4) 是正

(1) 二酸化炭素排出原単位 対前年超過

要因	コロナ禍による売上減少を計画段階で折り込めなかった。
是正	排出量総量での増加が無いよう実績値をモニターし、省エネ活動を推進する。 ※二酸化炭素排出量計測については、次年度より「排出量総量」で計測する。

4.環境負荷 環境経営目標と実績

④ 2021年度目標（単年度）

1) 全社目標

環境への負荷		単位	目標	活動詳細	
① 二酸化炭素 総排出量	電力消費によるもの	kg-CO ₂	121,000	LED導入効果 室温パトロール推進	
	化石燃料消費に よるもの		灯油	0.0	灯油ストーブ廃止
			ガソリン	112,934	HV車の活用 拠点配分の工夫
	排出合計原単位		233,934	—	
② 一般廃棄物の排出量		トン	1.8	古紙分別の推進	
③ 産業廃棄物の排出量 廃棄物最終処分量	中間処理廃棄物	トン	9.66	混合廃棄物 リサイクル推進	
④ 水道（上水）使用量		m ³	530	手洗水栓管理と 節水啓蒙活動	
⑤ 化学物質の適正管理	指定数量倍数	倍数	0.2未満	定期的な保管量 見直し	
	化学物質状況確認	回	12	現場チェックおよび 数量管理	
⑥ 省エネ型製品設計製造	QCD活動回数	回	12	技術製造部門による 全体・個別検討会議	

4.環境負荷 環境経営目標と実績

④ 2021年度目標（単年度）

2) 本社 目標

環境への負荷		単位	目標	
① 二酸化炭素 総排出量	電力消費によるもの	kg-CO ₂	121,000	
	化石燃料消費に よるもの		灯油	0
			ガソリン	102,105
	総排出量合計		223,105	
② 一般廃棄物の排出量		トン	1.5	
③ 産業廃棄物の排出量 廃棄物最終処分量	中間処理廃棄物	トン	9.66	
④ 水道（上水）使用量		m ³	530	
⑤ 化学物質の適正管理	指定数量倍数	倍数	0.2未満	
	化学物質状況確認	回	12	
⑥ 省エネ型製品設計製造	QCD活動回数	回	12	

3) 音羽事務所 目標（2020年10月より適用）

環境への負荷		単位	目標
① 二酸化炭素総排出量	ガソリン	kg-CO ₂	10,828
② 一般廃棄物の排出量		トン	0.3

5.環境経営活動計画

項目		活動の内容	責任者	日程
二酸化炭素 排出量削減	電力	室温パトロール継続実施	管理部 (田中・岩月)	2021/3/31 継続活動
		1階空調更新(工場および加工室エリア)	管理部 (田中・岩月)	2022/1/31
	灯油	灯油ストーブ(スポット暖房)の廃止	関川	2021/3/31 継続活動
		電熱ヒーターへの切り替え	田中・岩月	2020年度 冬季から継続
	ガソリン	東海理化本社に事務所スペース確保 (移動コスト削減)	田中・岩月	2021/3/31 継続活動
		利用距離に応じたHV車輛配車 (HV活用最適化)	田中・岩月	2021/3/31 継続活動
一般廃棄物 排出量維持抑制	古紙リサイクル活動の推進 (リサイクル排出種類増 など)	田中・岩月	2021/3/31 継続活動	
産業廃棄物 排出抑制	混合廃棄物のリサイクル推進	田中・岩月	2021/3/31 継続活動	
	他 廃棄物のリサイクル化検討 (廃プラスチック資源化)	田中・岩月	2022/3/31	
節水	自動水洗器(手洗・男子トイレ)の更新	田中・岩月	2021/11/30	
	節水の啓蒙	田中・岩月	2021/3/31 継続活動	
化学物質の 適正管理	化学物質 仕入(保管)量の上限設定 ・および定期棚卸。	関川	2021/3/31 継続活動	
	管理状況にもとづく上限数量の見なおし (2回/年)	関川	2021/3/31 継続活動	
省エネ型製品 設計製造	技術関連会議でのOCD活動による 顧客要望の充実	鈴木(昭)・小林	2021/3/31 継続活動	

6.中期環境経営目標

中期環境経営目標（2025年度まで）

※CO2排出量2025年度目標：2013年度比▲25%

環境への負荷		単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
① 二酸化炭素 総排出量	電力	kg-CO ₂	121,000	119,438	117,876	116,314	114,750
	ガソリン		112,934	110,383	107,831	105,280	102,728
	排出合計		233,934	229,821	225,707	221,594	217,478
② 一般廃棄物の排出量		トン	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7
③ 産業廃棄物の 排出量 廃棄物 最終処分量	中間処理 廃棄物	トン	9.66	9.57	9.47	9.38	9.29
	埋立 廃棄物		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	最終 処分量		0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
④ 水道（上水）使用量		m ³	530	530	530	530	530
⑤ 化学物質 適正管理	指定数量 倍数	倍数	0.2未満	0.2未満	0.2未満	0.2未満	0.2未満
	化学物質 状況確認	回	12	12	12	12	12
⑥ 省エネ型製品 設計製造	QCD 活動回数	回	12	12	12	12	12

7.環境改善事例

番号	取り組み	写真	実施内容
1	古紙リサイクルの推進・拡大		<p>古紙リサイクルの排出範囲を拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな紙ごみもリサイクル化 ・シュレッダーごみのリサイクル排出 <p>一般廃棄物として排出していた紙ごみをリサイクル化することで、一般廃棄物排出量の減少につながりました。</p>
2	1F工場 天井扇の活用 (暖房使用時期)		<p>暖房使用時期に1F工場の天井扇を稼働させることで暖気を循環させ、暖房効率の上昇をはかりました。</p>
3	リモート会議の活用		<p>会議室および営業室、設計室にリモート会議環境を整備。 (モニターおよびマイクの設置)</p> <p>客先への移動を減少することでガソリン等の使用量減少につながりました。</p>
4	空調運転の最適化 (継続活動)		<ul style="list-style-type: none"> ・一日2回、事業場の室温および空調の設定温度を確認。 夏季室温28℃・冬季室温20℃になるよう調整しています。 <p>(2019年度に引き続き活動)</p>
5	汐入干潟清掃活動への継続参加		<p>豊橋市主催の「汐入干潟クリーンアップ大作戦」に昨年に引き続き参加。三河湾奥部にのこる干潟に流れ着くプラスチック等のごみを清掃しました。</p> <p>(2018年度より継続参加)</p>

8.法規・法令順守状況

・主な法規・法令順守状況

当社に適用される環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

法令・法規に関し関連する各機関から指摘をうけたことは3年間ありませんでした。

確認日 2021年9月9日
 確認者 環境管理責任者 岩月 靖

法規・法令	条文	規程	遵守内容	判定	状況
騒音規制法	法4・5	都道府県知事が定める基準	騒音規制基準の順守	○	騒音状況：全時間帯で規制値内
振動規制法	法5	都道府県知事が定める基準	振動規制基準の順守	○	振動状況：全時間帯で規制値内
フロン排出抑制法	法16	告示2-1	管理第一種特定製品の簡易点検及び専門点検	○	保守業者による年次点検および簡易点検（外観検査）実施
	法16	告示2-2	一定規模以上の管理第一種特定製品の定期点検	○	保守業者による年次点検実施
	法16	告示4	管理第一種特定製品の点検及び整備に係る記録等に関する事項	○	製品毎に点検記録簿整備 点検時毎、点検記録記載
浄化槽法	法8・9・10	規2・3・6	浄化槽の保守点検及び清掃	○	清掃（年一回）2020年 点検（年4回）実施
	法11	規9	法定検査の受検	○	2020年10月受検
廃棄物処理法	法12	規8	廃棄物管理および処理委託関連	○	法逸脱なし。 周辺住民からの苦情なし。
	法12-3-1・6	—	マニフェスト交付義務および交付一覧提出	○	廃棄物委託の度にマニフェスト交付。 交付一覧表を2021年4月提出
労働安全衛生法	法11・12	安衛則4・7・16	安全管理者・衛生管理者の選任	○	各1名ずつ選任
	法16	安衛則16 有機則16	作業責任者の専任（有機溶剤）	○	1名選任
消防法	法9-3	—	指定数量未滿の危険物の貯蔵・取扱	○	指定数量1/5未滿を維持している
毒物及び劇物取締法	法11	—	対象薬品の貯蔵・盗難紛失対策	○	施錠管理・数量管理を実施
廃棄物の適正処理促進条例（愛知県条例）	条例7-1	規3	委託契約業者の定期的な確認	○	年一回実施している。

9.外部コミュニケーションの記録

I.外部からの苦情の受付状況

2020年4月1日～2021年3月31日における周辺住民および外部機関からの苦情はありませんでした。

II.利害関係者との訴訟・紛争等

2020年4月1日～2021年3月31日において当社の利害関係者との間に訴訟や紛争等の発生はありませんでした。

確認日	2021年4月1日
(現任者確認日)	2021年6月2日
確認者	環境管理責任者 岩月 靖

10.代表者による全体評価と見直し

2020年度は前年度に引き続きエコアクション21の「2017年版ガイドライン」が適用され、経営における課題とチャンスとを認識した環境経営目標に基づき活動を進めてまいりました。

I.全体評価

①環境負荷低減

電力・エネルギーについてはコロナウィルス感染症のまん延による稼働低下の影響による使用量低下により総排出量は減少しましたが、売上高が低下したことによりCO2原単位では目標未達となりました。

廃棄物排出量については、一般廃棄物では古紙・ダンボールの分別徹底により一般廃棄物は減少いたしました。

産業廃棄物は事業所効率化活動による2S活動を実施したことで混合廃棄物を中心に総廃棄量が増加したことから、目標未達となりました。

水道利用につきましては手洗い水の流量適正化および啓発活動が奏功し目標をクリアしました。

化学物質管理につきましては保管状況の定期的な確認や仕入・保管数量の見直しを実施し、指定数量倍数の目標を維持しております。

②顧客要望対応

「経営における課題とチャンス」で認識した「顧客要望対応」につきましては、技術・製造部門の全体会合から各受注案件に関する個別打ち合わせに至るまで、顧客要望に基づいた省力化・省エネルギー化の検討を実施することで、顧客満足度の向上に務めております。

③法規・法令順守およびコミュニケーション

環境法令違反や環境ヒヤリハットはなく、また、近隣住民や周辺企業、行政からの環境に関する苦情の発生はありませんでした。

II.見直しと総括

2020年度の環境活動につきましてはコロナウィルス感染症のまん延による業績低下が大きく影響し総使用量を基準とする指標については目標と比べ大幅な改善がみられる反面、原単位指標については売上の減少により目標未達となりました。また、廃棄物についても事業所環境の改善に伴う2S活動により排出量目標を超過いたしました。

2021年度も引き続きコロナウィルス感染症の影響により不確定要素が大きい中、連結親会社である株式会社東海理の「カーボン・ニュートラル戦略」に基づいたエネルギー政策を通じCO2排出量の低減に努め、また廃棄物の分別推進により排出量目標の達成に取り組んで参ります。

環境経営方針については、2018年4月1日改定分について検討いたしましたところ、改定変更の必要なしと判断いたしました。

環境経営目標については、目標の達成が可能になるよう評価レベル、評価方法および環境経営計画の見直しを行うよう環境事務局へ指示いたしました。

コロナウィルス感染症の流行状況など景気動向への不確定要素が大きい中、引き続き経営資源の最適な運用と環境配慮型の経営を通じ、顧客要望に全力で対応することで景気変動の影響を好循環につなげるべく活動してまいります。

2021年 5月 25日

株式会社 サン電材社

代表取締役 松橋 貞行